



森のなかま 2015年6月号 NO. 86号 (継続231号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

(公財)かながわトラストみどり財団の設立30周年記念イベントが行なわれました!!

(兼 県民参加の森林づくり 平成27年度第1回 植栽)

場所：相模原市緑区鳥屋（宮が瀬湖畔鳥居原園から徒歩10分）

(公財) かながわトラストみどり財団の設立30周年と同記念イベントにつき

(公財)かながわトラストみどり財団 森林課長 内海 様 より寄稿いただきました。

NPO法人かながわ森林インストラクターの会の皆様には、県民参加の森林づくり活動をはじめ財団の活動において、欠くことの出来ない重要なパートナーとして絶大なご協力をいただき誠にありがとうございます。私も、かながわトラストみどり財団は、身近なみどりの保全を目的に昭和60年6月に「みどりのまち・かながわ県民会議」として設立され、平成21年には、山のみどりの保全が財団の事業になり、今年で30周年を迎えることになりました。この間、神奈川のみどりを守り育て、かけがえのない自然環境を子や孫に残していく運動を、多くの県民や企業の皆様と協働して推進してきたところであります。山のみどりの保全活動である県民参加の森林づくり活動においては、重大な事故もなく大きな成果を上げることが出来ているのは、現場主義のもと安全第一をモットーに活動の指導をしていただいております、会の皆様のお力添えがあってこそと、感謝申し上げます。

さる5月24日(日)に、財団設立30周年記念イベントを行いました。会場は、相模原市緑区鳥屋、今年度、最初の県民参加の森林づくり活動であり、作業内容が植樹であること、フィールドが平坦であるため子供を含め多くの方の参加が望めること等の現場条件が揃い、30周年記念イベントのスタートにふさわしい会場をセッティングすることが出来ました。当日は、植樹日和のもと関係者も含め173名の多くの参加をいただき、お子さん

も交え和やかな雰囲気でも賑やかに記念植樹(800本)等のイベントを行うことが出来ました。大勢の方に30周年を祝っていただき、秋のメインイベントを前に大きな弾みが出来ました。その際は、会の皆様の出席を心からお待ちしております。

(上)主催者の挨拶と植栽前の広場
(下)植栽後(800本 4種類
イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、カツラ)



代表による記念植樹



こんな小さな子も参加
(抜群の鍬捌きでした)

最後になりますが、木材生産はもとより地球温暖化の防止等、多面的な機能を持っている森林の役割への期待は益々高まっております。「前人木を植えれば後人涼し」という中国の故事にありますように、後世に残す豊かな森林づくりのため、財団と会とが車の両輪として、これまでの30年を踏まえ、これからの100年に向け「県民参加の森林づくり活動」をさらに発展して参りましょう。



AED (Automated External Defibrillator)
自動体外式除細動器

平成27年度 第1回ブラッシュアップ研修

「野外における応急処置法について（講義・実技）」（公財）トラストみどり財団主催
4月26日（日）9:30～16:15、場所: 足柄上合同庁舎第二別会館（会議室および武道館）

< 大原 正志 13期 >

（写真、データのご提供 財団 古館様）

年度初めとして、インストラクターの資質向上をはかる為、ボランティア活動中の緊急時にすばやく対応できるよう、日本赤十字社神奈川県支部の勝俣指導員他2名の先生方にご指導を頂きました。

救命救急法の講義と実技を一通り学んだ後、実技並びに筆記試験が行なわれました。参加した久保理事長並びに1期～13期のインストラクター全参加者31名が無事に日本赤十字社神奈川県支部より「受講証」と「認定証」を受け取ることができました。



救助者の呼びかけからスタート



ダミーを使って心肺蘇生
AEDを用いた除細動の一時救命処置



気道異物除去の方法



エマージェンシーブランケット

参加者のなかには、救命救急法の講義と実技に関し、今までに受講・実技経験が有りましたが、救急法の基礎知識を改めて学習・整理し、また、実技で、救助者が出たことを想定し、傷病者の観察、ダミーを使って心肺蘇生・AEDを用いた除細動の一時救命処置の繰り返し、気道異物除去の方法、エマージェンシーブランケットのデモ使用、その後、日本赤十字社神奈川県支部の指導員の先生方による実技試験を受けたことは大変、充実した研修となったと思います。

研修会の終わりに指導員の先生から「苦しんでいる人に出会ったとき」今回学んだ救急法を行動に移す自信と勇気を持って欲しいとご意見がありました。「いざ」という時に落ち着いて対処できるよう今後もブラッシュアップが必要だと思いました。

参考書の紹介がありました。書名:「簡単にできる山のファーストエイド」、

著者:恵(みさお)秀彦氏(今回の研修で指導いただきました。) 出版社:山と溪谷社

今年度のブラッシュアップ研修予定

第2回 8月30日（日）講義「国民の祝日・日について」、実技「ロープワーク」 場所: 県民サポートセンター（横浜）

第3回 12月5日（土）間伐研修 場所: 塚原ボランティア林



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目／NPO法人で初めて委嘱されています。



NW活動事業部主催 草木染め指導員養成研修会

4月29日(昭和の日) 場所: 丹沢登山口(大倉) どんぐり山荘

講師: 白畑 まどか 氏 7期

<記 小川 和恵 13期 >

(写真撮影 村井 正孝 氏 9期)

鯉のぼりが風に泳ぐ青空の美しいこの日、参加インストラクターは渋沢駅から20分バスに揺られて会場へ向かった。どんぐり山荘では講師が私たちを出迎えてくれた。久しぶりにお会いする人もいて、和気あいあいとした雰囲気が始まった。

まず、染色の今昔ということで生活の中で何らかの必然性から生まれたものであるということ。飛鳥時代になると朝廷の階級を色で分けるようになり、年代ごとに利用目的が変わり、明治時代になると合成染料に変わっていった。第一次世界大戦により、ドイツからの化学染料の輸入が途絶えた。そして第二次大戦後、伝統工芸が見直されることにより、多くの人が植物染色に携わっていった。

今回の草木染は初めての参加者が多く、講師の説明の一言一句に耳を傾けていた。

今日の染料は、乾燥したカツラ(枝葉)、ヤシャブシ(実と枝)、コナラ(若葉)の三種類が用意されていた。好きな染料を選んで4~5人のグループに分かれた。

講師の指導の下、いよいよ草木染の実習が始まった。



絞り具のついた状態
⇒ 狙い通りの紋様ができたかな？

私たちグループはカツラの乾燥した葉を枝からもぎ取り、適当な大きさに切り、それを用意されたボールにいれて水を張って火にかけた。

今回は木綿のハンカチーフに染色を施すということで、自分の思い描く図柄に思いをはせてゴム・糸・板・棒・リング等を使って模様づくりをした。

次に染料の煎だし(染色液作り)→染色(布を浸ける)→水洗い→媒染(希望の媒染剤を入れた媒染液に浸ける)→水洗い・・・といくつもの工程を経て出来上がった作品は世界に一つしかない私だけのもの！！

皆さんの出来栄は ⇒ VERY GOOD！！



皆それぞれが想像もしなかった紋様が描き出され笑顔が溢れていた。

研修会終了後は手打ちそばに舌鼓を打ち、村井インストラクターが事前に摘んだヨモギを使った「ヨモギ団子」や講師が手作りした筍煮がふるまわれた。

やどりきで採取できる植物を使い、草木染が楽しめると思うと期待に胸が膨らみます。

草木染を通して沢山のひと々と楽しい時間が共有できたらどれほど幸せなことであろうか。緑ゆたかなこの日本で、身近にある植物を使って出来る「草木染」は体に優しい、心に嬉しい、地球にもやさしいものと思う。

参加者: (敬称略)

菊地昭子①、堀江精三郎④、斉藤彰秀⑧、松本洋子⑧、村井正孝⑨、小沢章男⑨、篠原光男⑨、
大塚晴子⑪、西出健一⑫、赤崎さほり⑫、長尾聖司⑬、斉藤夏葉⑬、星野澄佳⑬、小川和恵⑬

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

第8回 植物成分をモデルにより良いものを作る
香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏

前回(第7回)にも述べましたが、植物から得られる天然物の作用は化学合成品に比べその作用が弱いものが多いのが普通ですが、天然物には私たち人間が思いもよらぬ構造を持ち、殺虫作用や薬理作用などの有用な働きをするものが数多くあります。例えば昔から蚊取り線香の材料として使われてきた除虫菊に含まれているピレスロイドという化合物です。除虫菊は別名シロバナムシヨケギクとも呼ばれていて、どちらの名前も虫を追い払う名前が付けられています。おそらく最初はこの草を燻して蚊を追い払っていたのでしょう。材が緻密なので基盤や彫刻材に使われ、また芳香をもつので古い時代の仏像にも使われていた木にカヤがありますが、カヤの名は昔、葉を燻して蚊遣(かやり)に使用したことに由来しています。植物を燻して蚊などの害虫を追い払うことはわが国に限らず世界のあちこちで行われてきましたし、いまでもそうしている地域は少なくありません。

さて、話を戻しましょう。50年ほど前まではわが国は除虫菊の世界最大の生産量を誇り、そのほとんどを輸出していました。当時、除虫菊は重要な輸出品の一つだったのです。

今では主に観光を目的として瀬戸内地方でわずかに栽培されている程度です。除虫菊の殺虫成分ピレスロイドは人間が想像もつかないようなとても複雑な構造をしています。そして人間や家畜のような動物にはほとんど毒性を示しませんが、昆虫類には殺虫作用と運動神経を麻痺させて落下させる作用があります。このように役に立つ除虫菊の成分ですが、一度その働きを知り、有効な成分の構造を知ると、天然物から得られる活性成分に満足せず、手を加えてさらに強い作用のあるものを作ろうと思うのは誰しも考える当然のことかもしれません。除虫菊から得られたピレスロイドの構造を基にその一部に手を加えてさらに数十倍の殺虫作用のある強力な成分が作られたのです。天然物はこのように人の考えでは想像もつかないまさに神のみぞ知る複雑な構造を人に教えてくれ、新たな活性成分を作りだす手助けをしてくれるのです。新

たな化合物の合成の基になる天然物をリード化合物と言います。リードする、すなわち天然物には人を導く役割があるのです。



米国のオレゴン州に生育している太平洋イチイという木の樹皮からたいへん複雑な構造を持つタキソールという抗ガン物質が単離され、今では医薬品として使用されています。この化合物が構造決定、がん細胞や動物による生物検定、人を対象とした臨床試験を経て医薬品として認められるのにおよそ30年の年月を要しました。この間に微量しか含まれていないタキソールを研究のために得るために相当量の太平洋イチイの樹皮が採取され、一時は絶滅の恐れまで心配されました。いくら役に立つものでも絶滅してしまえば元も子もありません。結局、タキソールは太平洋イチイだけでなく、ヨーロッパイチイや日本のイチイにも含まれていることがわかり、太平洋イチイからの採取は回避されました。さらにヨーロッパイチイからはタキソールの類似化合物が含まれその量が多いことがわかり、この化合物からタキソールへの合成ばかりでなくタキソールよりも強い作用を持つ化合物の合成もできることになったのです。これも複雑な構造を持つ天然物が人に知恵を授けてくれたといえるでしょう。

(イラスト 広報部 大塚 晴子)

“やどりきの森へ行こう”【夏も近い！ウツギ&動物探し】が催されました。

5月17日(日)晴れ、募集参加者33名 案内インストラクター7名

(取材&写真 広報 松本、小池)

オリエンテーション



驚愕のイノシシの牙



?何かな?



ベニバナニシキウツギ



マルバウツギ



ガクウツギ



ニシキウツギ



ミツバウツギ



森林インストラクター14期生養成講座の受講風景

5月17日(日)午後

(取材 広報 松本)



森林インストラクターの卵たち(14期生)の受講の様子を伺いに足柄上合同庁舎訪れてみました。この日は

講師:NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会 理事長 澁澤 寿一氏

内容:森林ボランティア団体に期待すること

で、皆さん興味津々で熱心に受講していました。また、此の日飛び入り受講の先輩インストラクター6人も研修生以上に熱心に受講されていました。(参考:澁澤寿一氏は理化学研究所創設等の澁澤栄一氏の曾孫さん)



活動短信



鴻雁北(4/10～)

(こうがんきたす)

清明 次候

龜始鳴(5/5～)

(かわずはじめてなく)

立夏 初候

今回の掲載は
4/11～5/6です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

林、周遊歩道Bコースの自然観察に切り替えました。予定通り、10時から開会式、準備体操を行った後、混雑を避けるため、9班を2つに分けて、1～5班は山に向かって右回り、6～9班は左回りとして、10時20分頃、林間広場を出発しました。

参加者は、途中、野鳥の声や沢のせせらぎに耳を傾けたり、名残惜しそうに咲くミツマタや満開のミヤマシキミで目を楽しませながら、水源林や樹木に関するインストラクターの話に興味深く聞き入っていました。雨のためか、ヤマビルの被害に遭う方もおられましたが、全員無事に1時間余りの散策を終えて、12時過ぎ、やどりき水源林後にされました。

(記 西出 健一 12期)

◆ キリンビール株式会社 横浜工場「水源の森活動」

回 4月11日(土) 10:00～12:00、小雨

場 やどりき水源林、

参 副工場長・丸山様、牧石様、他71名

県 十鳥様、増田様

イ L西出⑫、伊藤⑦、小野⑦、有坂⑧、阿部⑧

小沢⑨、大澤⑩、湯浅⑪、澤村⑫、溝田⑬

小雨とは言え前日からの雨が降り続けているため、パートナー様、県と協議して間伐は取り止め、やどりき水源



人も自然も
いきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 株式会社カナエル「森林再生パートナー活動」

日 4月22日(水) 9:30~13:30、晴

場 県立21世紀の森、マダケの展示林

参 統括マネジャー二関様、他18名

イ L村井⑨、西出⑫

青空の下、ウグイスの声があちらこちらから聞こえる春の一日、「21世紀の森」で竹林整備を行いました。男女共に若い方が多く、2時間、目一杯、取り組んで頂いたお陰で、荒れていた竹林は見違えるように整備され、皆さん、満足のいく様子で眺めておられました。

予定通り、木材工芸センター前の広場で、9:30から開会式が行われ、挨拶の後、準備体操、道具の配布を行って、9:50に作業現場に向かい、10:00から作業を開始しました。マダケの展示林は整備が進んだとは言え、未だ経路を少し外れると倒れた竹、枯れた竹、曲った竹等が残っています。まず幹と枝の集積地を定めて、作業を開始しました。最初は慣れない手つきの鋸さばきの方も、次第に慣れて、途中、休憩をはさんで12:30まで汗をぬぐいながら作業を行いました。終了後、整備された竹林を振り返って成果を確認して、現場を後にしました。広場前に戻り、道具の整備、閉会式を行って、解散しました。

(記 西出 健一 12期)

◆ 生長の家神奈川教化部 竹林整備

日 4月25日(土) 13:00~16:00、小雨のち晴れ

場 県立21世紀の森 マダケの展示林

参 青年会事務局長古村様、他13名(大人9名子供4名)

イ L山崎⑦、白畑⑦

時々小雨がバラつく空模様だったが、参加者到着後はまずまずのお天気となった。

竹林に移動し、沢から上がって右奥に男性(お父さん)チーム、その手前の足場の良い所で、女性(お母さん)と子供チームの二つに別かれ、それぞれ作業を始める。男性の方は伐った竹の中から細工用を持ち帰ることにする。

女性の方は伐った竹の枝払いはお子さん達の仕事で、一本一本、丁寧に処理していく。程の部分と枝葉は分けて積むよう説明する。お母さん達はためらう事なくお子さんに鋸を渡し、枝を切る手元を見守りながら、和やかに作業が進んでいった。

竹伐の後は工作室前で花入れとマイ箸作りを行う。和

気あいあいの心地よい時間が流れ、思い入れある作品が出来上がる。お子さんのケガも無く無事終了。それぞれの作品を手に今夜の宿へと向かわれた。

(記 白畑 まどか 7期)

◆ 自然観察会「21世紀の森の山野草観察」

日 5月2日(土) 10:00~15:30、晴

場 県立21世紀の森 天然の森コース~林道~

金太郎広場~どんぐりコース

参 2名と21森園スタッフ2名

イ L 杉崎⑩

「21世紀の森園内を散策しながら森に生えている山野草を観察」という初めての試みとのこと。参加者2名と園のスタッフ2名の4名と家族的で和やかな活動でした。

10時にふれあいセンターで、挨拶やメンバーの紹介、スケジュール等の打合せ後、内山林道→天然の森コース→展望所→セントラル広場(昼食)→上部休憩所⇄展望台→管理道→内山林道→ふれあいセンター(休憩)→林間広場→連絡通路→カシの木森→ふれあいセンターの行程で、折々に触れる動植物を五感で味わいながら時間を掛けた濃密な観察会でした。

展望所では足柄平野と相模湾を一望し、展望台では残雪の富士山を望むことが出来た。

ウグイス、キビタキ、ホオジロ、メジロ、ヒガラ等其々の伴侶を求める明るいリズムが森いっぱい響きわたり、セントラル広場には黄色一面のウマノアシガタのお花畑。

天候に恵まれ、園内爽やかなみどりのそよ風に包まれて、21世紀の森ならではの明るい心の和む一日でした。

(記 杉崎 恒三 10期)

◆ クレマチスフェア(街頭キャンペーン相模原)

日 5月3日(日・祭) 9:00~15:30、晴れ

場 相模原市立 麻溝公園

参 209名(大人116名、子ども93名)

イ L森本⑤、菊地①、高橋③、渡辺③、足立④、

小野⑦、中島⑨、海野⑩、永松⑫、星野⑬

相模原市(政令市)で初めての街頭キャンペーン。実施に当たっては、(公財)相模原市まち・みどり公社麻溝公園グループ様に 大変 お世話になった。

今回、丸太切りは実施せず、どんぐりクラフトも台座付きの簡易タイプ(150個)とした。結果、お客さまの流れも

スムーズで、紙芝居が聞き易い静かなイベントとなった。
今後とも、まち・みどり公社との協働路線を模索していきたい。

(記 森本 正信 5期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」
ホームページは下記URLで見ることができます。



◆ 松田町寄自然休養村 第38回若葉まつり

日 5月5日(火・祭)9:30～15:30、晴れ

場 寄自然休養村 管理センター広場

参 約8500名(公式記録)

イ L森本⑤、古舘⑬

松田町寄の地元のお祭りに、グッズ販売で初めて出店(店名は「森の宝物王国」)。水源林でのパートナーさんとの交流や地域振興・還元の絡みから、松田町観光協会と松田町・観光経済課の方々をお願いして実現できた。グッズ売上はかなりの好成績でした。

現地は、テレビ朝日・依田さんの天気予報ロケ地となり、早朝のこの宣伝が、効いたようです。

この日の実行委員長は、渋谷 薫(寄自然休養村養魚組合長)様で、8月15日の「やどりき水源林のつどい」に、川魚のいろいろ焼き・燻製などで出店を検討してくれるといいな…と思いました。

(記 森本 正信 5期)

ングでみられたのは、カジカガエルの卵とカジカの稚魚だった。カジカの稚魚は5～6ミリくらいでよくよく観察しないと見落としてしまいがちだったが、注意して観察してみると、眼やヒレもしっかりついていて、子どもたちに人気があった。川の方は、これから流れが安定し水温も上がれば、石にコケが付き、たくさんの水生生物を採集することができそうである。子どもたちの活動に対する関心に多少ばらつきはあったものの、観察だけに終始せず、水生昆虫のエサの種類や昆虫自身が天敵から体を守る工夫などについて、進んで調べたり、質問などしたりして、積極的に活動する姿が見られた。川での採集と観察にさいいた時間はおよそ90分くらいであったが、子どもたちにとっては水が冷たくても、まだまだ川での採集を続けたかったようである。

後半は、林道コース近辺の森の様子と樹木の特徴を覚えながら森林と人との結びつき森林整備活動の目的や意義などについて話を深めた。こちらの方は、30分ぐらしか時間がなかったが、広場から山の神が祭られている周辺の林道を歩きながらその目的を果たすことができた。

観察会終了後の反省会では、河原での石投げなどについて事前に注意をしておいたので、ヒヤリハットにつながる問題点はなかったが、ボーイスカウトの参加者の年齢幅に応じた活動として、今後、内容を吟味する必要があるのではないかという声があがった。次回の企画へと継ぐための工夫や留意点についても話し合いを持った。

(記 谷川 克 11期)

◆ ボーイスカウト町田18団 (ボーイスカウト活動)

(森林の自然観察と水生生物の採集・観察)

日 5月6日(水)9:30～12:25、晴れ

場 林道コースの森林観察及び川での水生生物の観察

参 ボーイスカウト団員 51名(内スタッフ6名含む)

イ L井出①、宮本④、山崎⑦、村井⑨、谷川⑪

小学生高学年から高校生に至るまでのボーイスカウトの団員を5班に分けて水生生物の採集・観察と林道コースわきの森林の観察を実施した。当日は、申し分のない五月晴れではあったが、水温は上がりず冷たかったのと、水量が多く水棲昆虫の採集が難しかった点があげられる。採集できたのは、カゲロウ、カワゲラ、トビケラをはじめ、ガガンボの幼虫が多かったが、この時期のタイミ

投稿概略フォーマットと略語の説明

ページレイアウトは気にされずベタ書きで結構です。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所

参 参加者

県 (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財 ((公財)かながわトラストみどり財団)、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター(○数字:期) 研:研修枠
(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

リーダーは責任を持って執筆者の選択をお願いします。

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします

やどりき水源林 ミニガイド

5月のトピックス

ウツギが満開。
ジャケツイバラも咲いています。



6月の水源林

動植物の活動が活発になってきます。鳥、昆虫、水生生物、草花等の最高の季節がやってきました。是非ともやどりきにおいでください！

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時、1～2時間程度
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(公財)かながわトラスティ
みどり財団 TEL：045-412-2255
FAX：045-412-2300
- ホームページ： <http://www.ktm.or.jp>
- E-mail： midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35～40分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

丹沢大山国定公園50周年記念開催！



主催：丹沢山小屋組合/秦野市観光協会
協力：小田急電鉄/秦野市/伊勢原市
特設 URL サイト： <http://www.kankou-hadano.org/tanzawastampally/>
事務局：秦野市観光協会(Tel 0463-82-8833)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>
松本 保 (Eメールアドレス変更です)

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

Mail: s_akasaki-k_instructor@live.jp

Tel: 090-6150-6173

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保 (Eメールアドレス変更です)

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先：090-7962-3168

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045 横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：井出恒夫)

編集後記

★久しぶりに寄で森の案内人を担当し、緑が爽やかな水源林にお客様をご案内できたことが嬉しかったです。
(赤崎)

★ニオイバンマツリ(熱帯アメリカ原産)淡紫の花が沢山咲きました。部屋いっぱい甘くて優しい香りがたちこめています。日にちが経つとだんだん白くなるのですね。
(小川)

★今年は昨年より強力な大型台風が何度も日本列島を襲ってきそうないやな予感がします。
(水口)

★善光寺の御開帳に行ってきました。数えきれないくらい見ていた善光寺ですが山門に初めて上がってみました。そこから見た風景が下の写真です。
(松本)



◇ 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛までご寄附2000円をお振込み下さい。
振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。
振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人： 松本 保
事務局： 竹島 明
広報部： 小沢章男 水口俊則
徳岡達郎 大塚晴子 赤崎さほり
小池 哉 小川和恵 園田栄哉
支援 伊藤恭造

開成町あじさいまつり

お問い合わせ先：開成町まちづくり部産業振興課 TEL:0465-84-0317
<http://kaisei-ajisai.com/>



2015 開成町あじさいまつり開催決定
平成27年6月6日(土)～14日(日)の9日間
ご来場を心よりお待ちしております。



開成町あじさいまつり特別展
開成町指定重要文化財・築約300年前の古民家
あしがかり郷 瀬戸屋敷